

障がいのある人の雇用に取り組む



社会福祉法人

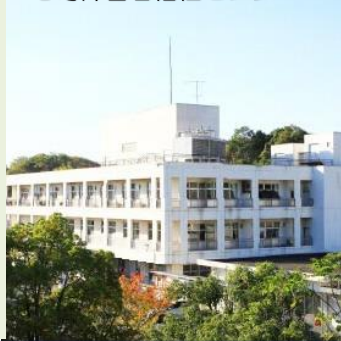
京都府社会福祉事業団

(京都市中京区)

「京都はあとふる企業」です

心身障害者福祉センター

視力障害者福祉センター



【主な事業内容】

障害・高齢・児童等の多種多様な社会福祉事業

【障がいのある人の主な仕事】 障がい者スポーツの指導員、視覚障害者の理療師養成施設の教員



障がいのある人が働く心身障害者福祉センターと視力障害者福祉センターを訪問しました。

【障がい者雇用の経緯】

社会福祉事業を行う法人として60年以上前から障害のある方を雇用しています。現在は、心身障害者福祉センター（体育館）に身体障がいの方1名と視力障害者福祉センター（あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師養成施設）に視覚障がいの方7名が働いています。心身障害者福祉センターの方は、障がい者スポーツ（フェンシング）の元選手で、障害のある利用者にスポーツに係る支援を行っており、視力障害者福祉センターの7名の方は、その養成施設の教員を務めています。今後も障がいの有無に関わらず、職員として相応しい方は採用していきます。

【Yさんに聞きました】

就労7年目です。バイク事故で車椅子生活になりました。3年間のリハビリを経て社会復帰し、22年間他の事業所で働いた後、自営業を始めました。以前から、障がい者スポーツ（フェンシング）をしており、この体育館で練習していたところ、職員募集があり、応募し採用されました。2021年の東京パラリンピックも目指しました。

現在、利用者に対するポッチャや卓球、フェンシングなどの支援をはじめ自身の体験を元に近隣の学校での講演や附属リハビリ病院のセラピストへの助言を行っています。

【工夫していること】

両施設は障がい者支援施設で、バリアフリーや防護マットなどの整備だけでなく、歩行ルールの整備、IT機器・視覚障がい者用支援機器の配置、音声読み上げソフト・点字の図書等を整備をしています。また、日常業務のサポートを行うアシスタント職員の配置も行っています。

【Iさんに聞きました】

就労11年目です。大学を卒業後、マッサージ師の教員免許を取り、京都への憧れとアットホームな環境が気に入り就労しました。日頃からマッサージ技術の向上など自己研鑽に努めています。生徒（視覚障がい者）が自分の指導で患者さんの体の痛みが和らぎ喜んでいただけた時は嬉しいです。教職員のチームワークも良く、生徒との関係も良好です。生徒には常にことばにして伝えることと、寄り添う姿勢が大切だと思っています。趣味は音楽・旅行と旅行先でのグルメです。